

平成30年度 第2回江田島市公共交通協議会（平成31年3月12日）

協 議 会 議 事 要 点 録				
会議名	平成３０年度 第２回江田島市公共交通協議会			
日 時	平成３１年３月１２日（火）１３時３０分～１５時１０分			
場 所	大柿市民センター２階会議室			
傍聴者	なし			
出席者	県立広島大学	名誉教授	の はら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教 授	おかやま まさ と 岡山 正人	○
	江田島バス株式会社	代表取締役	おもかわ ただみち 重川 忠道	○
	江田島バス株式会社	従業員代表	はたふじ ひで き 畠藤 秀樹	○
	広島県旅客船協会	会 長	にっ た いちろう 仁田 一郎	○
	瀬戸内シーライン株式会社	船員代表	たにぐち みのも 谷口 実	×
	広島県タクシー協会江能支部	支部長	いまみや こう じ 今宮 浩二	○
	江田島市自治会連合会	会 長	こ せ き たかひろ 小跡 孝廣	○
	江田島市老人クラブ連合会	会 長	ふるもと さね き 古本 眞機	○
	江田島市社会福祉協議会	会 長	どう の さき たいら 堂野崎 平	○
	江田島市女性会連合会	会 長	はままつ ゆ き こ 濱松 由紀子	○
	江田島市観光協会	会 長	いとう ふ み お 伊藤 富美雄	×
	中国運輸局	海事振興部旅客課長	こんどう ただよし 近藤 忠義	○
	中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	はしもと み ち ひさ 橋本 実千寿	代理出席 重長 誠
	広島県	地域政策局 地域力創造課長	やまだ かずたか 山田 和孝	代理出席 山香 賢治
	江田島警察署	地域交通課長	ほった しん じ 堀田 真二	○
	江田島市	副市長	ど て さんせい 土手 三生	○
	江田島市	企画部長	え ごう かずゆき 江郷 壺行	○
	江田島市	土木建築部長	ひろなか のぶたか 廣中 伸孝	○
1 開 会				
事 務 局	開会宣言			
2 会長あいさつ				
会 長	土手会長あいさつ			

3 議 題	
(1) 報告事項 ア 予約型乗合タクシー「おれんじ号」のダイヤ改正について（資料1） イ 公共交通マップの増刷について（資料2） ウ バス利用促進イベントの実施について（資料3） エ 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について（資料4） オ 広報えたじまへの連載記事について（資料5）	
議 長	まずは報告事項として、資料1から資料5まで、事務局から説明よろしく願います。
事 務 局	－資料1～5により説明－
議 長	ただいまの説明につきまして、御質問あるいは御意見がありましたら、承りたいと思います。いかがでしょうか。
委 員	今回、バス利用促進イベントを初めて開催されました。我々も協力させていただいたところですが、参加者の反応も好評とのことなので、引き続きこのような地域と一体となった取組を続けてほしい。 もう1点、平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価については、先日、この事業の2次評価に当たる、第三者評価委員会を開催したところです。各地域でいろいろな取組をしているなかで、人口減少などで利用が伸び悩んでいる地域も多く、苦勞されているところですが、今後も利用者のニーズに対応した取組を推進することで、維持確保に努めていただくことを期待しているという2次評価案が出ているところです。
委 員	バス利用促進イベントの参加者が17名とあるが、何名まで参加できるのか。
事 務 局	NASVA（自動車事故対策機構）の適正診断用の機器を利用する関係で、バス乗車体験等と併せて実施する半日イベントだと、参加者20名程度が適切な設定人数となる。
委 員	NASVAの適正診断用の機器の精度は高いので、わざわざ広島まで行かなくても島で実施してくれるのであれば、参加したい。
事 務 局	地域との協働による公共交通の利用促進という目的で、他地区での開催も考えている。アンケート結果でも、バスに初めて乗っただとか、乗って残していくことが大事であるといった感想もあった。事務局としても他地区にも広げて行きたいと考えているので、御相談ください。
議 長	ただいま事務局から説明がございました。他には何か御質問、御意見はございませんでしょうか。
各 委 員	（質問・意見等なし）
議 長	なければ、事務局から説明のあった5つの報告につきましては、御了承を得たということで、取りまとめさせていただきます。
カ 中町/宇品航路に係る指定管理者のモニタリングについて（資料6）	
事 務 局	－資料6により説明－

平成30年度 第2回江田島市公共交通協議会（平成31年3月12日）

議 長	ただいまの説明につきまして、御質問あるいは御意見がありましたら、承りたいと思います。
委 員	市による立入検査を実施したとあるが、船舶のドックの立会検査はどのように実施しているのか。
事 務 局	交通局時代に船長又は機関士の経験がある職員に立会いして貰っている。
委 員	この航路は指定管理者である瀬戸内シーラインが運航しているが、船の耐用年数については何年まで使用可能とかの制限はあるのか。また、船の更新計画はあるか。
事 務 局	耐用年数については、資産価値を計上するためのひとつの目安である。船の重要な部分である、エンジンの換装をニュー千鳥が平成13年9月、スーパー千鳥が平成19年9月、ロイヤル千鳥が平成22年3月に換装している。進水は確かに平成5年～平成9年と古いが、船の中身については、整備している。 船の更新計画については、指定管理者の更新時期が平成32年10月であるため、来年度、次期指定管理者公募に向けた条件を専門家の知見を得ながら、設定する予定である。そのなかで、船の更新が必要かどうか意見をいただくことになっているので、来年度には示すことができると考えている。
委 員	資料6にある、「豪雨災害が要因と思われる増により、乗降客数は約7千人の減少（▲1.3%）でした。」とあるのは、豪雨災害で乗客が増えたので、その数字で留まったという意味か。また月別の利用人数は分かるか。
事 務 局	その数字で留まったということ。また、月別の利用人数は持ち合わせていないが、3箇月で前年比約2万人増加している。
事 務 局	この航路の乗降客数は、毎年2～3%減少している。災害前も同じペースで落ちていたが、呉方面の陸路が寸断された影響だと思われる要因で、災害後の7～9月で大幅に増えた。今回については、トータルで約7千人の減、率にして▲1.3%の減少率で収まったという状況になっている。
議 長	ありがとうございました。他に御意見はございませんでしょうか。
委 員	資料6の今後の対応で、航路維持のため、より一層の努力が必要とあるが、努力はしていると思う。例えば、ワンコイン 500 円で料金設定して乗客を増やすなどの、大胆な発想が必要ではないかと思う。
事 務 局	今回、約1千8百万円の赤字。料金を半額にすれば、単純計算で更に1千8百万円赤字が増える。そこは誰がどう負担するのかという話になる。料金値下げについては、交通事業者の方が詳しいとは思いますが、値下げしてその料金を維持できるのかという面で、なかなか難しいのではないかと考えている。 今後の対応にあるとおり、我々が実際に船やバスのダイヤや料金を決めて走らせている訳ではないので、あくまでも事業者さんと相談しながら、工夫していくことになる。例えば、中町航路で言えば、船を降りてもバスが走っていない時間帯もある。本当は船を使いたい、使えない人がいるかも知れない。観光客の利用促進の面でも、まだ工夫の余地があるのではないかと考えている。そういったことを事業者さんと相談しながら、できることからやってみたいと考えている。

平成30年度 第2回江田島市公共交通協議会（平成31年3月12日）

議 長	ただいま事務局から説明がございました。他には何か御質問、御意見はございませんでしょうか。
各 委 員	（質問・意見等なし）
議 長	それでは中町/宇品航路に係る指定管理者のモニタリングにつきましては、御了解を得たということで、取りまとめさせていただきます。
キ 路線バスの収益率、運行系統、運行回数及び時刻について（資料7）	
議 長	路線バスの収益率、運行系統、運行回数及び時刻につきまして、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	－資料7により説明－
議 長	ただいまの説明につきまして、何か御質問あるいは御意見がありましたら、承りたいと思います。
委 員 （運行事業者）	路線における枝番系統について補足しますと、高田地区が無医地区になった経緯があり、中町桟橋止まりだった路線系統を高田桟橋まで延長したものである。 運営については、国・県・市の補助をいただきながら、バスを運行をしています。人口が減りつつも、運行収入を増やすために、観光客の取り込みやＩＣカードの導入を計画しており、利用客を増やすための事業を実施したいと考えている。また、古いバスの更新や低床バスの導入、路線見直しなどの計画も立てていきたいと考えています。
議 長	ありがとうございました。他に御意見はございませんでしょうか。
委 員 （指定管理者）	先ほどの船の話題を含めての話だが、船もバスも非常に苦しい状況が続いています。船の指定管理で言えば、この5年間は運賃もダイヤも変更できない条件のなか、来年の秋で丸5年を迎えます。そのなかでいろいろと見えてきた事もある。 持続可能という部分が一番大事で、どうやったら利便性を損なうことなくサービスを維持出来るのかという工夫が必要になってくる。バスと船が接続していない部分についても、上手く接続することで、仮に便数を減らしても上手く接続していればそれに乗れるということが大事になってくる。 現状でも朝の便は高田から200人乗りの船が同時に出ているが、1隻でも乗れるくらいの人数です。バスでそれをつなげば、1隻で賄える。利便性が悪くなる訳でなくて、工夫によって燃費も良くなる。 千鳥は大きい船なので、かなり燃料も使う。先ほど船の更新の話もあったが、小型の燃費の良い船にして、昼間の乗客の少ない時間は小型の船を投入するなど、次の5年間でどう工夫していくのか、案を出しながら持続可能な方法を模索していくということが課題となってくるのではないかと思う。
議 長	ありがとうございました。他に御意見はございませんでしょうか。
各 委 員	（質問・意見等なし）
議 長	それでは路線バスの収益率、運行系統、運行回数及び時刻につきましては、御了解を得たということで、取りまとめさせていただきます。

ク 平成31年度江田島市当初予算について（資料8）	
委 員	平成31年度江田島市当初予算につきまして、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	－資料8により説明－
委 員	バスのICカードについて、将来的に船も含めて同じシステムで使えればと思うが、何系のカードシステムを導入するかは決まっているのか。
事 務 局	バス・船・電車と一体で利用できるシステムである、パスピーの導入を予定している。
議 長	他に御意見はございませんでしょうか。
各 委 員	（質問・意見等なし）
議 長	それでは平成31年度江田島市当初予算につきましては、御了解を得たということで、取りまとめさせていただきます。
（2）協議事項	
ア 平成31年度事業計画及び歳入歳出予算（案）について（資料9）	
議 長	協議事項として、平成31年度事業計画及び歳入歳出予算（案）について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	－資料9により説明－
委 員	ICカードの導入については、バスのみの導入ということか。
事 務 局	今回は江田島バスへの導入で考えている。船舶については、船に持って入れる機器が開発されていないため、機器が開発され次第、船舶事業者にも相談に行きたいと考えている。
議 長	他に御意見はございませんでしょうか。
委 員	事業費が250万円ほど減っているが、その主な要因はなにか。
事 務 局	繰越金の大幅な減が理由。事業を止めたというようなことではない。
議 長	他に御意見はございませんでしょうか。
各 委 員	（質問・意見等なし）
議 長	それでは平成31年度事業計画及び歳入歳出予算（案）につきましては、御了解を得たということで、取りまとめさせていただきます。
5 その他	
議 長	その他でございます。何かありますでしょうか。
事 務 局	本日は予算について協議いただきましたが、次回は新年度に入って5月頃に平成30年度の事業報告及び決算について開催させていただきたいと考えています。 また、4月に入りましたら、人事異動などで、委員の変更も考えられます。事務局から、委員の変更手続ということで確認させていただいたり、手続をお願いしたりということがあろうかと思っておりますので、よろしくお願いします。

平成30年度 第2回江田島市公共交通協議会（平成31年3月12日）

議 長	以上で協議会終了となりますが、他に何かありますでしょうか。
委 員	オブザーバーとして参加している、町自治会連合会長が聞いてみたいことがあるとのことですが、発言を許可してもよろしいか。
議 長	どうぞ。
オブザーバー	オブザーバーなので、本来は発言する立場にないのですが、許可いただきましたので、発言させてください。 利用者としての立場で話をしたい。3つあります。1つ目は、おれんじ号沖美北部線が月・水・金で運行しているが、毎日運行してほしい。前日予約なので、月・水・金だと煩わしく、面倒で使わなくなる。島の病院おおたにや温泉など利用者は限られてくる。費用対効果で難しい面もあるが、お願いしたい。 2つ目は海上交通について、三高港夜間便の就航。現状では三高からの広島市内への通勤者が残業ができないので会社に行けなくなる。中町航路の便を2便、三高に寄港させれば良いと思うのだが。 3つ目は先ほど話題に出た、運賃値下げによる利用者増。ガソリン代で計算しても、三高から自家用車で妻を乗せて呉を回ったほうが安い、呉回りはしんどい。自治会でもフェリーを使おうという話は出すが、料金、特に車両料金を下げないと、利用者が増えていかない。以上、公共交通協議会でも検討をお願いしたい。
議 長	ただいまの御意見のなかには、過去から盛んに議論されているものもあり、単純な燃料代比較だけで済む話ではないことも分かってきたところです。諸経費や人員配置、施設整備などいろいろな要素が必要となってくる話だと思いますが、事務局からお願いします。
事 務 局	自治会長さんからのこの話は、以前から聞いています。議長も触れましたとおり、結局それをやったら、間違いなく費用がかかる。余計に費用が増えることで、その路線自体が無くなってしまえば、本末転倒となる。まず考えるべきは路線の維持。そのために必要な費用はどの程度なのかというところを見ていかないといけない。この話は、次回の協議会でおれんじ号を1便走らせるためにどの程度費用が必要なのか、そのためにはお客がどの程度乗らないといけないのかとか、本日の資料7のバス路線で出したような数字を示すので、また議論したいと思っています。
議 長	単純な燃料比較で済む話ではなさそうですので、また次回議論してみたいと思います。ありがとうございました。
6 閉 会	
議 長	それでは、以上をもちまして、本日の協議会を閉じさせていただきます。今日は長時間、ありがとうございました。